

私の住む愛媛県砥部町には、緑豊かな山の中という立地が活かされた自然がたっぷりの「とべ動物園」がある。ホッキョクグマの「ピース」の人工哺育で一躍有名になった動物園である。前身の「道後動物園」には、世界で唯一の日本カワウソの飼育記録があったことから、シンボルマークにはニホンカワウソが使われている。

私は歯科医師として働いているが、愛媛県歯科医師会伊予支部では、毎年六月四日に「むし歯予防デー in とべZOO」というイベントを行なっている。いろいろな思い出があるが、一番心に残っているのは、今は亡きインドゾウの夫婦、太郎と花子である。二頭は一九七四年に来県し、一九八七年十月に道後動物園の移転に伴い、とべ動物園へと引越した。ゾウの臼歯は一回に上下左右四本が萌出し、計五回生え替わるらしいが、花子は三十三歳の時、歯の生え替わりがうまくいかず亡くなった。四十日間、涙を流し続ける太郎を元気づけように行ったのが、牙の歯磨きだった。おとなしく応じてくれたが、実は太郎の牙は若い頃に折ってしまい片方しかなかった。

ミミナガヤギの歯磨きをしたこともあった。「ヤギさん」ということで、八木健会長にゲストとしてご参加いただき、楽しいイベントとなった。

ゾウさんの耳のリボンはモンシロチョウ

春はまだかとキリンは首のぼす

カバの歯に体当たりする青嵐

薫風はギザギザワニの歯駆け抜けて